

# 成田市教育委員会会議事録

平成29年9月成田市教育委員会会議定例会

期 日 平成29年9月26日 開会：午後2時 閉会：午後3時30分

会 場 成田市役所中会議室

## 教育長及び出席委員

教 育 長	関 川 義 雄
委 員 (教育長職務代理者)	小 川 新太郎
委 員	高 木 久美子
委 員	福 田 理 絵
委 員	佐 藤 勲

## 出席職員

教育部長	宮 崎 由紀男
教育総務課長	鬼 澤 正 春
学校施設課長	篠 塚 正 人
学務課長	高 梨 哲 生
教育指導課長	高 安 輝 司
生涯学習課長	田 中 美 季
学校給食センター係長	高 柳 健 治
公民館長	神 崎 良 浩
図書館長兼視聴覚サービスセンター所長	池 田 桂 士
教育総務課長補佐 (書記)	篠 塚 康 孝

傍聴人：0人

1. 教育長開会宣言
2. 署名委員の指名 小川新太郎委員、高木久美子委員
3. 前回議事録の承認
4. 教育長報告

#### 主催事業等

○8月28日 平成29年度成田市中学校全国・関東大会出場選手報告会について

市内の中学校から、関東大会、全国大会に出場した生徒たち12名が市長を表敬訪問し、それぞれの大会での状況を報告してくれました。自分が中学生の時は、県大会に出場するにも大変だったのですが、その県大会でも活躍し、関東大会や全国大会に参加できるというのは、それはもう大変なことだと思います。今年は特に全国大会で入賞できたという生徒はいませんが、生徒たちの話を聞いていると、純粹で、ひたむきな姿勢が伝わってきて、感銘を受けました。中学3年生の生徒は、既に進学する高校を決め、進学後も同じ競技を続けたいと言っていました。今後の成長が楽しみです。

○9月 2日 図書館文学講座「人生の宝物 - 私を作った文学とアート」について

作家の原田マハさんにお出でいただき、ご講演をいただきました。当初、定員150人で応募を募りましたが、実際に応募された方はその倍の300人を超える勢いとなったため、図書館で行う予定だった講演会場を急遽、市役所大会議室に移して実施しました。原田マハさんについては、女性の読者が多く、愛読なされている方も相当数おられたものと思われませんが、これだけ多くの方が講演会にお出でいただき、主催者としても大変うれしく思った次第です。私も原田マハさんにご講演前に少しだけお話しさせていただきましたが、とてもすっきりした空気感を持ちの方で、歯切れよく、さわやかな印象を持ちました。現在、千葉日報など、地方紙10数社に「風神、雷神」という小説を連載中であり、まさにタイムリーな企画であったと思いました。

○9月 9日 中学校体育祭参観について

中学校体育祭、私は、大栄中、遠山中、成田中、久住中、それに下総みどり学園の5校を見

学いたしました。残り5校については宮崎部長が参観しております。中学校の体育祭は、生徒が伸び伸びと活動できる場であり、学校の勢いを感じたり、逆に、生徒指導上の課題が浮き彫りになるような場でもあります。そのため、できる限り参観しようと努めているところです。私が見た5校は、ほんのわずかの時間でしたので、詳しくはわかりませんが、どの学校も生徒のひたむきな気持ち、態度が前面に出て、大変良い雰囲気を感じ取った次第です。各委員の皆様も、それぞれのお立場で体育祭を参観されておられると思いますので、後ほど、その状況をお聞きしたいと思います。

#### ○9月16日 明治大学・成田社会人大学3課程合同特別研修について

恒例となった明治大学での特別研修。今年も100人を超える参加者があり、バス4台で明治大学に向かいました。今回は、明治大学グリークラブと、明治大学ニューウェーブジャズオーケストラの演奏を聴いた後、午後から株式会社コマース21の代表取締役社長である、玉井邦昌CEOの講演をお聞きしました。玉井社長は、EC、エレクトリック・コマース、いわゆる電子商取引のシステムを構築する会社の最高責任者であり、明治大学の出身です。大学卒業後、平成2年に住友銀行に入行とのことでしたので、現在、50歳ぐらいでしょうか。IT関連企業のトップが、世界経済におけるITの位置づけ、国内ITの現状と課題、IT人材の教育戦略等について語ってくれました。このお話の中で私が特に印象に残ったのは、イノベーション（技術革新）の80%はITが起点になっているという話と、AI（人工知能）の到来、ということ。今後の義務教育を考える時、基礎、基本の徹底はもちろんのことですが、その力がその後どう生かされていくのか先を見通すことも必要になるのではないかと、新しい時代に必要とされる能力は、どのように育成されていくべきなのか、そして、こうした学びを追求できる力をどのように養っていけばいいのか、考えさせられる時間となりました。

#### ○9月24日 第25回成田市小学生相撲大会について

第25回目となる市内の小学生相撲大会がありました。今年は80名の小学生が参加しました。学校対抗の団体戦と、学年ごとに個人戦が行われましたが、この相撲大会は男女の区別がありませんので、男子対女子という戦いもあって、ほかの大会とはまた一味違った雰囲気があります。団体戦には4校、8チームの出場がありましたが、毎年参加者が一番多いのは加良部小学校です。最近では本城小学校も常連組になってきました。それぞれ、なかなか強い子がいます。団体戦優勝は、加良部小の「どすこい加良部」、準優勝は「本城小B」、第3位が成田小の「成田音頭」、同じく第3位に加良部小の「わんぱく加良部」といった結果になりました。団体

戦も個人戦もそれぞれトーナメント方式での戦いになり、一度負けたら後がないということで、一瞬のうちに勝敗が決することもあって、なかなか目が離せない試合が続きました。私は午前中だけ出席し大会の様子を見ていましたが、今年は、相手の足をとって倒す、まるでレスリングのような試合が多かったのが印象的でした。腰を落として、相手を一気に押し出す力強さを期待していたのですが、あまりこうした競技に慣れていない子では、なかなか難しいのかもしれない。

## 市議会

○9月1日～9月27日 平成29年9月定例会について

今回の議会では、福田委員の任期満了に伴い、新たに児童・生徒の保護者から教育委員を選出したいということで、現在、加良部小学校児童の保護者である片岡佳苗さんが市長から任命され、議会では満場一致で可決されました。片岡さんは、現在、加良部小学校のPTA副会長もされておられるということですが、その他にも様々なボランティア活動に従事され、大変忙しく活動されている方です。任期は、本年10月1日から4年間となります。教育委員会会議では、福田委員同様、母親の立場から率直に意見交換できることを期待しております。なお、今議会では、教育委員会から提案した議案はありませんでしたが、一般質問では、6人の議員から様々な質問を受けたところです。特に、雨宮議員からは、教職員の不祥事問題についてのみ質問を受けましたので、それぞれに丁寧にお答えしました。不祥事の防止には研修だけでは不十分、これまでも十分研修してきたにもかかわらずこれだけ続けて起きているのだから、というお考えがあるのだと思いますが、では、どうすれば良いか、と問われても、決定的な方策を見出すことは困難です。発生した問題のうち、個人の不注意によるものや、組織的なチェック体制が不備なものについては、防ぐ手段を講じることはできても、わいせつやセクハラといった問題は、その人間性に起因するところが大きく、なかなか良い解決方法がありません。私は、職場の雰囲気をも明るく、風通し良くするとともに、職員同士が教育に関して気軽に議論を交わせる場であることが大切だと思っています。学校週5日制が始まった頃の教育と、現在の教育を比較すると、現在は、教育現場が格段に忙しくなっています。指導時間数も増え、指導内容も増え、児童生徒の家庭環境がますます複雑化する等、教職員が携わる業務が圧倒的に増加しているのではないのでしょうか。こうしたところから改善を図っていかないと質の高い教育を実践することもできませんし、教職員の多忙化も、不祥事も防げないのではないかと懸念するものです。

## ○9月13日 教育民生常任委員会

常任委員会では、教育委員会から1件のみ、「就学援助費における入学準備用品費の入学前支給について」を報告させていただきました。平成30年度に小学校入学の児童の保護者、そして、現在6年生の児童の保護者のうち、就学援助支給対象となる方々に対し、入学準備用品費をそれぞれ小・中学校に入学前に支給するものです。実施に当たっては様々な課題もありますが、少しでも家庭支援につなげていきたいという気持ちで、担当職員も頑張っています。

## ○9月19日～21日 決算特別委員会

決算特別委員会では、質問事項が多く、当初の予定通りにはなかなか進まず、教育委員会の事業分については、2日間にわたって審査していただきました。この中では特段問題になった事項はありませんでしたが、給食調理場の設置計画が遅れていることや、市費単独で学校に配置している養護補助員や特別支援教育支援員の人数が足りていないのではないかと、などの指摘を受けました。まさにその通りですが、限られた予算の中でやりくりしている実情もあります。今後は、必要とされる人員配置をしたいと願いつつ、学校の指導体制の強化も図らなければならないと考えています。

## その他

### ○8月26日 第52回関東相撲選手権大会・第20回関東小学生相撲優勝大会について

相撲の関東大会が成田市の相撲場で開催されるということで、私も開会式に招待され、出席しました。一般の部と小学生の部、それぞれの関東大会ということでしたが、当日は、印旛郡市社会教育振興大会もあり、こちらにも出席する予定だったため、開会式だけ参加してまいりました。これまで子どもたちの相撲大会は何度も見てきましたが、大人の大会は大相撲を両国国技館で観戦して以来、見たことがありませんでした。プロの大会ではありませんが、さすがに関東大会に参加する力士の身体は大きく、きっと試合では迫力のある熱戦が展開されたものと思います。また、こうして市のスポーツ施設が有効に活用されることはとても良いことだと思いました。

### ○8月26日 平成29年度印旛郡市社会教育振興大会について

高木委員さんも出席されましたが、私から簡単にこの日の概要を説明いたします。今回の会場は富里市ということで、隣接する市ということで私も出席しましたが、印旛郡市内で出席した教育長は、開催地の富里市の他は私一人だけでした。それぞれ、様々な事情はあるのでしょ

うが、他市の教育委員会は、この大会そのものに、あまり大きなウエイトをおいて無いように思われました。学校教育の課題が多すぎ、なかなか社会教育まで手が回らないといった状況なのだと思います。また、時期的にも9月議会前の多忙な時期に差し掛かっているといった状況もあるのでしょうか。開催時期も含め、この大会の意義も見つめ直して、改善を図っていく必要があるように思いました。

#### ○9月15日 平成29年度成田スポーツフェスティバル第1回実行委員会について

今年は10月7日に開催されるスポーツフェスティバルですが、市の組織が変更されたことに伴い、これまで教育委員会部局であった生涯スポーツ課が市長部局に移ったことで、主管する事務局も、教育委員会から市長部局に移管されました。このことから、教育委員の皆様には、これからは来賓としてご招待させていただくことになりました。

スポーツフェスティバルの内容については、昨年度とほぼ同様で、誰でも気軽に参加できる内容となっています。良い天気にも恵まれますことを祈っています。

#### ○9月19日 青年海外協力隊 派遣前表敬訪問について

JICAによるボランティア派遣で、市内在住の綿貫大地さんがアフリカのベナン共和国へ向かうことになり、市長を表敬訪問しましたので、私も同席させていただきました。綿貫さんのお父さんは、かつて、私と7年間、同じ学校で勤務したことがある方で、当時は、二人とも若く、未熟で、元気いっぱいでしたが、結構わがままな言動も多く、いろいろな方にご迷惑をおかけした時代でした。今度は、その頃生まれたお子さんが成長し、こうして海外に派遣されるということで、改めて時代の流れの速さを実感したところです。

自分がやりたいことと、その地で求めていることは、若干違いがあるのかもしれませんが、あくまでも現地の方の思いを受け止めて頑張ってきていただきたいと思ったところです。

#### 《教育長報告に対する意見・質疑》

佐藤委員：運動会の感想を述べさせていただきます。私は、大栄中学校と下総みどり学園の2校を参観しました。大栄中学校の開会式で、教育長が挨拶の中で、4年後にいきなり大栄みらい学園が生まれるわけではなくて、今から段々につくり上げていくという趣旨のお話がありましたが、校長先生はじめ先生方、そして生徒がどのくらいその言葉を受けとめたのでしょうか。真剣に受けとめてほしいと思いました。また、何

年か前から、小学校と中学校の連携ということで、リレー競技を運動会で行うのですが、そういった対抗戦ではなくて、各学校の高学年を集めて、みんなでマスゲームを行うなどして、統合学校に向けての考え方をしていってほしいなと感じました。その後、下総みどり学園も伺いましたが、こちらは、小学生がいるからなのか、中学生も一生懸命で、大栄中になくワクワクするような空気がありました。特に感心したのは、小学校高学年のダンスとか日体大がやるような集団行動の発表で、相当練習しないと出来ないようなことを見事に行っていました。運動会というのが、教育の成果を発表する場の一つであると捉えると、やはり、十分な時間を取って練習したものを発表することにより、子どもたちは達成感があり、また、観る方も感動するという事ではないかと思います。春に運動会を実施する学校もありますが、私としては、教育的な効果ということも考えて、秋に運動会を行ってほしいなという感想です。また、先程、不祥事の話がありましたが、教員から児童生徒に対してのことは、これはもう言い訳の余地がありませんが、若い教員が、例えば、未熟だから起こしてしまったというようなことについては、若い教員を育てていかなければならないことから、寛容にならなければならないこともあるわけで、保護者とか周りを気にし過ぎて、一方的に若い力を潰してしまうことのないようにしなければならぬと、昨今考えています。

福田委員：西中と中台中の体育祭を参観しました。中台中の方は、来賓席が満席になるくらい来賓の方がたくさんいらして、熱心に応援をされていました。地域に見守られている学校なのだと改めて思いました。生徒は皆、真面目に競技に参加していて、ただららとしている生徒はいませんでした。西中の方は、個人的に毎年楽しみにしている全校女子のダンスがとてもよかったです。楽しそうに、笑顔で、かわいらしく踊っていました。ダンスは表現力が大事なので、笑顔で楽しそうに踊るということも指導の一つなのだろうと思います。また、男子のソーランも、1学期の学校訪問で練習風景を見せていただいたのですが、体育祭で完成版を見せていただきました。佐藤委員も話されていましたが、体育祭は、来賓の方々や保護者に見てもらって発表の場であると思います。

体育祭とは別の話になりますが、各地区で敬老会を行っていると思いますが、中台に関しては、中台中の体育館を会場に開催します。他の地域のことはよくわかりませんが、敬老会に限らず、学校の体育館をお年寄りが集まる場として使用することが多いと思います。中台中の体育館に関しては、多目的トイレがないとか、入口のスロー

プがないとか、少し問題があるといった声を耳にすることがあります。トイレについても、和式だった個室の便器を洋式に改修したものの個室が狭いといった声があります。また、来月、敬老会がありますが、スロープを福祉館から運んで設置するそうです。車いすを使用する方や杖をつけて歩く方が、利用しやすいような施設に整備していただきたいと思います。

高木委員：私は、印旛郡市社会教育振興大会に参加しました。講演会の方は、大変勉強させていただきましたが、振興大会を運営なさっている方々が皆さんご高齢でありまして、社会教育というのは大切なことであると思うのですが、大会自体が、何と言いますか、あまり緊張感がないというか、形骸化しているような感じを受けました。折角、大きな大会を開催していますので、もう少し会の振興について考えていただき、より素晴らしいものにしていかれたらと思いました。

体育祭の方は、成田中を参観しました。何日か雨が続いた後、大変暑い日の体育祭となり、開会式で倒れる生徒がいて、救急車で運ばれましたが、途中で意識が戻り、大事には至らなかったということでした。全体的に、生徒が主体性をもって取り組んでいると強く感じた体育祭でした。私の子どもも、何日も前から大ムカデの練習を頑張っている様子で、クラスみんなで行っているのだなと思いました。騎馬戦とか棒引きとかの競技を女子が行う際には、先生方が会場内に万遍なく配置されていて、結構、白熱する戦いとなり、棒引きで女子が蹴ったとか、戦いの中で不適切な発言があったとか、戦いごとに、中心となる先生がマイクで注意をされていました。確かに、大けがをするような危険なことがあってはなりません、「おとなしく優しく戦いましょう」というような指導については、少し矛盾を感じながら観戦しました。また、会場にスズメバチが飛んでいまして、危険だなと思いました。巣がどこにあるのかわからないのですが、倉庫の裏などの環境を整えるなどして、対処していただきたいと思いました。

小川委員：体育祭ですが、9月9日、西中を参観しました。大変、天候に恵まれて、少し暑いということで、来賓席は前列には誰も座らず、2列目あたりから皆さん座っていました。私が現役のころと比べて、人数が少なくなってしまって、少し迫力がなくなってきたなという感じはしました。しかし、子どもたちの伝統の応援合戦、これには全校生徒が一丸となって取り組んでいて、大変良かったと思いました。それから、徒競走



の方も、やはり少し迫力不足かなという感じがしました。また、9月16日、公津小の運動会を参観しました。台風18号が来る前で、雨が心配されましたが、何とか天気がもちまして、運動会を行うには涼しくて良かったのではないかなといった天候でした。公津小の方も、だいぶ児童数が少なくなり、もう少し児童数が増えてくれるといいなという思いはしました。ただ、子どもたちは本当に一生懸命に取り組んでいまして、小規模の学校にもかかわらず、綱引き大会に優勝するなど頑張っているという印象を持ちました。

また、教育長報告とは直接関係ありませんが、今日の毎日新聞に、子どもたちは教科書の文章を読み取れていないといった記事がありました。教員は、子どもたちが教科書を読んでいるという前提で授業を進めていることが結構多いと思います。しかし、子どもたちは教科書を十分に読めていないという前提で授業を行うことが大切であるようです。私自身も、若いころ、二等辺三角形の授業をしているときに、二等辺三角形については、子どもたちはわかっているものだという前提で授業を行っていました。ところが、子どもたちは、あまりわかったというような顔をしないので、どうしてだろうと思い、よくよく調べてみたところ、二等辺三角形の定義がわかっていなかったということがありました。そこで、わかっていないという前提で授業を行うようにしたところ、子どもたちからわかりやすいと思われるような授業になったという経験があります。今朝、この記事を読んでいまして、そのとおりだなと感じたところです。本日の会議でも、全国学力・学習状況調査の結果についての報告がありますが、その辺のところも、少し考えていったらいいのではないのかなと思いました。

議 長：他にご意見等ございませんか。では、ご意見の中で、事務局の方から対応について説明はありますか。

篠塚学校施設課長：学校のトイレについてご意見をいただきました件で、ご説明いたします。多目的トイレの設置につきましては、順次、進めているところで、中台中につきましては、体育館にはありませんが、校舎内には多目的トイレがある状況です。現在、体育館と校舎のいずれにも多目的トイレがない学校もございますので、そういった学校から、順次、設置しております。本日いただきましたご意見につきましては、今後の整備の参考とさせていただきますと思います。

福田委員：中台中には校舎内に多目的トイレがあるといった説明ですが、学校の体育館で行事が開催される時は、校舎内は立ち入り禁止になってしまいます。やはり、体育館にも多目的トイレは必要だと思いますので、順次、体育館にも設置していただきたいと思いをします。

## 5. 議 事

### (1) 議 案

議案第2号については、成田市教育委員会会議規則第20条第1項の規定により非公開により審議する。

議案第1号 「平成29年度成田市教育委員会功労彰・功績彰表彰者（案）について」

鬼澤教育総務課長：

議案第1号、平成29年度成田市教育委員会功労彰・功績彰表彰者（案）について、ご説明いたします。

教育委員会表彰につきましては、成田市教育委員会教育功労者表彰規則に基づき、本市における教育、学術又は文化の振興に関し、特に功績の顕著であった個人又は団体に対して教育委員会が表彰を行うものです。

表彰者の決定に際しては、報告を受けた表彰予定者について、同規則第9条により教育委員会の議決を経て決定することとなっております。

それでは、議案資料をご覧いただきたいと思いをします。まず2ページ及び3ページですが、今年度の功労彰に推薦いたしますのは、ご覧の10名となります。

石神 博昭 様、木内 宗三郎 様、木下 由彦 様、矢野 潔 様、根本 明久 様は、学校医として20年、日暮 寛之 様は、学校歯科医として20年の事績が功労彰の対象となったものです。

また、藤山 勝 様は社会教育委員として、宮下 陽祐 様、飯嶋 治通 様は文化財審議委員会委員として、野村 豊 様は図書会協議会委員として、教育委員会が委嘱する非常勤特別職を10年以上の事績が功労彰の対象となっております。

次に、4ページ及び5ページが功績彰の対象の皆様になりますが、個人5名と団体2チームの計7件となります。こちらの方々には、スポーツ活動において、公的機関等の主催する大会に

おきまして、小・中学生においては、全国大会入賞または関東大会3位以内入賞、高校生・社会人においては、全国大会3位以内入賞と、特に優秀な成績を残された方々です。

以上のとおり、功労彰と功績彰を合わせまして合計17の個人・団体を推薦させていただきます。

また、表彰式における表彰の対象ではありませんが、内規により担当課において表彰いたします感謝状及び奨励賞につきましては、6ページが感謝状、7ページが奨励賞の対象の皆様となります。感謝状は、教育委員会が委嘱する非常勤特別職として8年以上の事績による方が1名、奨励賞は、公的機関等の主催するスポーツ大会において、全国大会出場の事績を残された方が、個人4名、団体1チーム、計5件となります。

なお、本年度の成田市表彰式でございますが、11月15日（水）に市役所6階大会議室で開催を予定しておりますので、委員の皆様のご出席をお願いいたします。

市表彰審査委員会及び庁議への報告スケジュールの都合上、表彰式2か月前の提案となりますが、国民体育大会をはじめ、例年この間に行われる大会等において優秀な成績を残され、新たに推薦を受ける場合もございます。その場合には、追加議案として提案させていただきますので、あらかじめご承知おきくださいますようお願いいたします。

以上が議案の説明となります。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

#### 《議案第1号に対する質疑》

佐藤委員：教育委員会表彰につきましては、前々回、前回と審議しましたが、例えば、文化財審議委員会委員の方など再任されている方には、やはり、功労彰はお辞めになるときに  
お渡しした方がよいのではないかと私は考えるのですが。

鬼澤教育総務課長：規定により表彰の対象となる方について推薦をいただいて、基準を満たす方につきましては、表彰をさせていただいておりますので、ご理解いただきたいと思います。

なお、市長部局の市表彰についても同様で、任期中におきましても、表彰の対象としております。

高木委員：今回、表彰される方は、来年度は表彰されることはありませんか。また、表彰において具体的な在職の年数は記載されるのですか。

鬼澤教育総務課長：今年度、表彰された方につきましては、同じ事績に対して来年度も表彰するということはありません。また、在職年数については、表彰の対象となる方の基準とさせていただきますが、表彰における事績において具体的な在職年数は記載されません。

高木委員：奨励賞については、規則ではなく内規での位置づけになっていますが、例えば、県総体で優勝した方など功績彰にしてもよいのではないかと思います。教育委員会表彰と市表彰がありますが、教育委員会表彰については、将来性のある子どもたちに対して、その頑張っていることについて応援するという意味合いからも、基準をもう少し緩やかにするなどして、表彰の対象を広げることも考えるべきだと思います。

議長：本議案は、表彰規程についての審議ではなく、表彰者についての審議であります。ただ今のご意見は、県総体で優勝した生徒は、奨励賞ではなくて功績彰の方がよいのではということでしょうか。功績彰は、小中学生については、全国大会において入賞等と内規で定めていますが。

鬼澤教育総務課長：奨励賞につきましては、功績彰の基準には満たないものの、県規模の大会で優勝するなどした小中学生の活躍をたたえるため、規則には規定されていませんが、内規で規定して表彰しているものです。教育委員会としましては、規則にはない奨励賞や感謝状を内規で定めて、より多くの方を表彰させていただいているところです。功績彰につきましては、小中学生については、全国大会で入賞または関東大会で3位以内入賞と内規で定めていることから、現段階で県総体の優勝者を功績彰にするということではできませんので、ご理解いただきたいと思います。

小川委員：表彰規程に則って表彰するのですから、そこから外れることはできないのですが、内規では表彰対象とならない方も、例えば、本拠地が市外の団体でも、市内在住の児童生徒については表彰するなどしてもいいと思いますが。

議 長：本議案につきましては、表彰規程に基づいて表彰者の提案させていただいておりますので、ご意見として伺わせていただきたいと思います。教育員会表彰につきましては、市の教育に関わる方々に対する表彰ですので、規則等を改正する場合には、改めて議論をしていただきたいと思います。

福田委員：ジュニアファイブ スポーツ少年団ですが、事績で関東ブロック競技別交流会とありますが、競技別ということは色々な競技をする中にバスケットボールがあるということですか。

議 長：これは、スポーツ少年団として参加した大会でして、ミニバスケットボールの関東大会というよりも、スポーツ少年団の各チームが集まった交流大会ということになります。そこでは、サッカーですとかミニバスケットボールですとか様々な競技が行われるということです。

福田委員：この大会についても関東大会という括りになるのですか。関東ブロックの交流大会ということですが、少し大会の重みが違うように思うのですが。今後、表彰規程の見直しを行う際には、この辺りについても考える必要があるのではないかと思います。

議 長：確かにご指摘のとおり、他の競技に比べますと、例えば、中学生が陸上競技の関東大会に出場するのと、スポーツ少年団が関東ブロックの交流大会に出場するのとでは、全くレベルが違いますが、関東規模の大会ということで規定しておりますので、表彰の対象となっています。

福田委員：表彰規程だけではなく、教育委員会会議で個々の内容を感覚的にも審議して調整するようなことも必要なのではないかと思います。

鬼澤教育総務課長：文言による規程により基準を定めておかないと、逆に不公平が生じることもありますことから、あまり融通を利かせない方がいい部分もありますので、その辺りは気をつけたいと思います。

議 長：クラブチームがそれぞれ集まって大会に参加して、いい成績をとるというのは、また違った部分で難しいこともありますし、立派な成果だと思います。教育委員会表彰はどういったものであるべきなのかということについては、また改めて議論していただきたいと思います。いずれにいたしましても、今回、表彰者として推薦されました子どもたちについては、それぞれの分野で得意をいかして非常に頑張った子どもたちです。功績彰であるとか、奨励賞であるとかという違いはありますが、どれも立派な成果だと思います。

議 長：色々ご意見をいただきましたが、その他、何かございますか。特にないようですので、議案第1号「平成29年度成田市教育委員会功労彰・功績彰表彰者（案）について」を採決いたします。本議案に賛成の委員は挙手を願います。

挙手全員であります。よって、本案は承認されました。

<これより非公開>

議案第2号 「成田市文化財審議委員会委員の委嘱について」

田中生涯学習課長：

議案第2号、「成田市文化財審議委員会委員の委嘱について」、ご説明をさせていただきます。

今回は、任期満了による委員10名の改選でございますが、10名全員を再任としております。成田市文化財の保護に関する条例第24条により、文化財の保存及び活用に関し教育委員会の諮問に応じ、又は意見を具申し、及びこれらに必要な調査研究を行うため、成田市文化財審議委員会を置くことと規定されており、委員には高い専門性と成田の文化財について十分な知識を持つ人物が求められます。このような事情により委員となる人材が限られることから、10年以上の在任者や年齢の高い委員もいらっしゃいますが、ある程度やむを得ないと考えております。

前回、平成27年の改選時には、長年在任された大塚初重先生と西野元氏の退任に伴い、高木委員と白井委員を新たに委嘱しておりますが、今回は、新たな選任は行わず、全員再任とさ

させていただきますよう、ご提案いたします。

なお、任期は平成29年10月1日から平成31年9月30日までの2年間です。

以上、ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

#### 《議案第2号に対する質疑》

福田委員：お忙しそうな方から高齢の方まで10名いらっしゃいますけれど、審議委員会には皆さん出席されているのでしょうか。

田中生涯学習課長：余程ご都合がつかないことがない限り、出席していただいております。年齢が高い方々ですが、皆さんお元気でいらっしゃいます。

議長：年3回、開催していますが、毎回、全員出席されています。

なお、提案の説明の中にもありましたが、高い専門性というところで、中々かわりの方というのは難しいようなところがございます。ですので、在任が長くなっている方もおりますが、そういったこともご配慮いただきたいと思います。

議長：その他、何かございますか。特にないようですので、議案第2号「成田市文化財審議委員会委員の委嘱について」を採決いたします。本議案に賛成の委員は挙手を願います。

挙手全員であります。よって、本案は承認されました。

## (2) 報告事項

報告第1号については、成田市教育委員会会議規則第20条第1項の規定により非公開とする。

報告第1号 「成田市生涯学習推進協議会委員の委嘱について」

田中生涯学習課長：

報告第1号、「成田市生涯学習推進協議会委員の委嘱について」、報告させていただきます。

今回は、任期満了による委員20名の改選でございます。内訳といたしましては、再任10名、新任10名となっております。

新任といたしまして、国際医療福祉大学 成田保健医療学部 理学療法学科 講師 志村圭太氏、成田市校長会 醍醐貞行氏、成田市ことばと心を育む親の会理事 五木田 弘子氏、成田市社会教育委員副委員長 日暮健氏、成田市スポーツ少年団副本部長 加藤義昭氏、成田市体育協会理事 渡邊義行氏、成田市PTA連絡協議会会長 木幡潤氏、成田市文化財保護協会理事長 大木英行氏、成田市文化団体連絡協議会理事 清野樹盟氏、公募の山下恭司氏が平成29年10月1日付けで委嘱されますので報告いたします。

公募委員につきましては、8月1日から8月14日まで広報なりたや市のホームページを通して募集をした結果、3人の応募がありました。関係部課の部長・参事・課長で構成する生涯学習推進協議会公募委員選考委員会による応募動機等の書類選考の結果、照 元康氏と新任の山下恭司氏に決定いたしました。新任の山下氏は、成田市生涯大学院33期生で、現在、税理士として活躍されております。

任期につきましては、成田市生涯学習推進協議会設置条例第4条の規定により、平成31年9月30日までとなります。

#### 《報告第1号に対する質疑》

小川委員：生涯学習推進協議会の委員の委嘱ですが、生涯学習ということになると、すごく幅広い内容になると思います。例えば、植木の剪定や家庭菜園・農業の野菜作りなども入ってくると思います。それから、公民館まつりですとか、文化面も入ってくると思います。そういった中で、協議会のメンバーを見ますと、スポーツに関わる方がかなり多く委嘱されていますが、もっと幅広い分野の方々に委嘱した方がいいような気がします。この辺については、どのように考えていますか。

生涯学習課長：実は、20人のうち10人がスポーツ関係の方でして、他の10人の方が生涯学習のメンバーという構成となっております。この生涯学習推進協議会の所掌事務ですが、1つは、生涯学習推進計画の推進、もう1つは、生涯スポーツマスタープランの推進に関することとなっております。生涯学習部会と生涯スポーツ部会を作れるようになっていまして、生涯学習部会と生涯スポーツ部会を作れるようになっているものでございます。



小川委員：そうすると、生涯学習推進協議会という名称が、どうなのかなということがありますね。いずれにしても、もっと幅広い分野の方々に委嘱した方がいいように思います。

議長：市で実施している事業のマスタープランの執行状況等を、生涯学習推進協議会の委員さんに伺っているというところがありまして、生涯学習と生涯スポーツそれぞれの分野の方に、市長が任命をされ、委嘱しております。今後、もっと幅を広げて、文化とか学術とか、そういった部分に広げていく必要があるのではないかというご意見をいただきましたが、そのとおりだと思います。

<非公開を解く>

報告第2号 「平成29年度全国学力・学習状況調査の結果について」

高安教育指導課長：

平成29年度全国学力・学習状況調査につきましては、平成29年4月18日火曜日に行われ、小学校6年生及び中学校3年生を実施対象として行われました。実施教科は国語及び算数・数学で、質問紙調査による学習習慣や生活習慣等の調査も実施しました。

はじめに今年度の結果の概要について説明いたします。お手元の資料1ページをご覧ください。まず小学校6年生の結果についてですが、国語・算数共に知識を問う問題の平均正答率は、全国平均と同程度でした。一方活用力を問う問題の平均正答率は、全国平均を若干下回りました。前年度との比較については、調査対象の児童が毎年異なり、出題内容も毎年新しくなっていますので一概には言えませんが、文章を書いたり、解き方を説明したりするなど、活用を問う問題の正答率が下回っている点は気になるところです。

次に中学3年生の結果についてですが、国語において活用を問うB問題で、全国の平均正答率を1ポイント近く上回りました。一方数学についてはA問題・B問題共に全国平均を下回り、特にB問題では全国平均を2ポイント以上下回りました。前年度はB問題の平均正答率は全国平均を上回っております。

資料の2ページから5ページには、評価の観点や問題形式別の平均正答率の比較に関するデータを掲載いたしました。小学校6年生の結果からは、選択式の問題形式よりも短答式や記述式の問題形式を苦手としている児童が多いことが伺えます。一方中学3年生の結果からは、特

に数学において事象を式や図、グラフで表現するなど、数学的な技能の力に課題が見受けられます。

資料の6ページから9ページには、正答数の分布グラフを掲載しました。棒グラフが本市のデータ、折れ線グラフが県及び全国のデータとなっております。小学校6年生、中学校3年生共に言えることは、学力の上位層がやや薄いことです。学習の苦手な児童生徒に確かな基礎・基本を身につけさせつつ、学力の高い児童生徒の思考力や判断力、表現力をいかにして伸ばすかが、これからの課題となります。

資料の10ページには、児童・生徒質問紙の結果を一部抜すいして掲載いたしました。本市の児童生徒の良い点としては、特に小学校6年生において国語の勉強が好きな児童が全国平均を大きく上回っています。各学校で継続的に読書活動に取り組んでいることが優れた結果につながっているようです。また、学校の復習に取り組んでいる児童生徒の割合も、全校平均と比べて大幅に高くなっています。その一方で、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」児童生徒の割合は、全国平均よりも低くなっています。自ら課題を見つけ、探究心を持って学習に取り組むことのできる児童生徒の育成が、今後は求められます。また、「自分には、よいところがある」と思っている児童生徒の割合も全国平均と比べて低く、様々な教育活動を通していかにして子どもたちの自己肯定感を高めるかが、本市の課題と言えます。

教育委員会といたしましては、今年度も、学力向上に成果を挙げている学校の実践例を紹介して、各学校で共有できるようなリーフレットの作成を進めていきます。リーフレットは、市全体の平均正答率及び傾向、対策についてグラフや文章で作成、配布し、学力向上に向けて学校、保護者に周知してまいります。

各学校の調査結果は、文科省から直接送付されています。各学校はそれを受けて、期末保護者会や学校便り等を通じて、自校の傾向と対策について、配布し公表するようお願いしています。自校の調査結果を基に、学習指導の改善を図るよう、校長会議を通して各学校に依頼してまいります。

#### 《報告第2号に対する質疑》

佐藤委員：最後の質問紙の結果のところで、「読書は好きだ」という項目で全国平均より割合が高いのは、先生方の努力が実って素晴らしいことだと思います。ただ、それと少し矛盾するかのよう、「算数（数学）の問題が分からなくても、諦めずに解こうとしている」割合が低いということは、読書が国語力に直結はしていないのでしょうか。読む

本の問題なのか、でも、今はとにかく読むことが大事なのか、といったことはありますが、そこは、もう少しクオリティーを高めて、読解力ということにつながれたらいいと思います。また、学校訪問のときに大きな学校において少人数で算数を教えている様子を参観しましたが、2校の校長先生に、グループの分け方は等質ですか、それとも習熟度別ですかと尋ねたところ、2校とも等質ですと答えられました。習熟度別に教えた部分もありますが、保護者の方への気遣いからそのようにしているとのことでした。算数の力をつけるという意味では、もう少し保護者の方に説明をするなりして、習熟度別で、その子に合った学習の進め方をしていけたらいいのになあと感じました。

小川委員：今回の調査結果をみると、全国平均を2ポイント以上下回る青色のところが多く、2ポイント以上上回る赤色のところが少ない状況です。この結果をどう分析して、各学校の校長先生方に伝えて、どうしたら、この青色のところを少なくできるか、そして、赤を増やせるか、その辺はどのように考えていますか。

高安教育指導課長：今、市内の学校では、国語と算数が研究教科というのが多くなっております。国語では、書く力に重点を置いている学校が多く、算数につきましては、思考力を高めたいということで、習熟度別、これは学校側から分けるのではなく、子どもたちが自分たちで、ゆっくりコースとか駆け足コースとかを選択して授業に臨むといった、子どもたちの意欲に合わせた工夫をしている学校もございます。こちらの課題につきましては、それぞれの学校において分析のツールに基づいて分析をいたしまして、それぞれの学校の課題というものを見つけ、授業改善につなげるということをいたします。最終的には、各学校での判断となりますが、教育委員会としましても、この部分は、こういう取組をしたらこのように上がりましたといった事例を示していきたいと考えております。

小川委員：この調査は、相当お金をかけて実施していることもありますので、是非、これをいかしていかなければならないと思います。所長訪問だとか、次長訪問だとか、私もいく

つかの訪問に参加しましたが、学力向上に関して何をやっているかというところ、ドリルをやっていると答えている校長先生方が多くいました。私は、ある校長先生に、「よそと同じことをやったって、しょうがないじゃないか」と言いました。自分の学校のどこが良くないのかをきちっと見極めて、独自の対策を取っていく必要があるのではないか、全職員が共通理解をしながら、自分の学校のオリジナルの取組をやってほしいというようなことをお願いした記憶があります。各学校の先生方は、真剣にとらえていただきたいと思います。また、調査結果を見ますと、できる子の割合が全国と比較して少ないようです。ということは、力のある子どもを伸ばしていないのではないか、本当は、やり方によっては、能力のある子をもっと伸ばしていくことができるのではないかと思いますので、その辺の対策を是非考えていただきたいと思います。

議 長：この全国学力テストは、小学校6年生と中学校3年生を対象としたものですので、決して成田市内の全部の児童生徒の状況について表したものではありませんということと、問題数が15問程度であり、1問間違えると正答率が大きく変わってしまうということもあります。平均だけを見て、分析をするのはなかなか難しいだろうと思います。成田市は、これ以外にも成田市独自で、全主要教科について、学力状況調査を小学校1年生から中学校2年生まで行っていますので、そういったものも参考にして、児童生徒の力を伸ばすための策を考えてまいりたいと思っております。

また、学校別にも状況を把握しておりまして、これは、どこの市町村でもそうでしょうが、学校間格差が大きいということがあります。学校の運営上の問題や教育方針といったところが大きく関係しているのかなと思います。教育指導課では、それぞれの学校に応じたアドバイスを考えて作成しているところでございますが、今、委員さんからいただいたご意見をもとに、更に工夫、改善を重ねていきたいと思っております。

## 6. その他

その他 「スケートボードパークの利用状況について」

鬼澤教育総務課長：

前回の教育委員会会議において、スケートボードパークの利用状況について、ご質問があり

ましたので、スポーツ振興課からヒアリングした結果をご紹介したいと思います。スケートボードパークには管理人がおらず、受付がありませんので、これはスポーツ振興課の職員が訪れた際や、指定管理者の方で巡回に行った際の状況ということですが、利用人数は、平日でいたい30人くらい、休日でも50人くらいの利用ではないかということです。利用者の年齢層は、児童から30代くらいの大人のように、成人男性が比較的多い様子とのこと。また、利用者は、市外から訪れている人が多いようです。現在、特にトラブルとか大きなけがといった報告はないので、今のところ順調に進んでいるというようなことです。今の時期の利用時間は、9時から17時ということで、朝の開錠と夜の施錠、あと日中、不定期に指定管理者の方で巡回をしているというような状況だそうです。利用料については、無料ですので、どこから何人来て利用しているといったことは分かりかねるといった状況です。以上、簡単ですが、ご報告といたします。

#### 《質疑》

議長：私も、前回ご意見がありましたので、休日にスケートボード場に行ってみました。

その日は大変暑い日でしたが、休日であったせいか、子どもたちが17～18人程度来ていました。ヘルメットを着用している人と着用していない人がおまして、約束事として、ヘルメットを着用することとしていますが、上級者と思われる人は、ヘルメットを着用している人は少ないようでした。子どもたちについては、皆、ヘルメットを着用していました。それぞれが、自分の技術に応じた対応をしているのかなと見受けました。また、駐車場にはプールを利用するために来た方も駐車するのですが、駐車場でスケートボードをしている人もいて、そういった人に対して注意をする様子もありました。

小川委員：この施設は、どのくらいの人まで利用できるようになっているのでしょうか。

鬼澤教育総務課長：だいたいですが、一度に20人くらい利用すると一杯になるようです。

小川委員：そうすると、平日の利用で30人くらいということでしたので、少し利用者が多い

ということですか。

鬼澤教育総務課長：一度に30人来て利用するという事ではないようですので、それほど混雑するといった状況ではないと思われます。

議 長：ずっと滑り続けるのは大変なようで、滑った後、少し休んで、また滑っていました。また、立ち止まって見ている人も結構いました。

その他 「韓日文化交流展について」

田中生涯学習課長：

韓国井邑市との友好都市締結15周年を記念いたしまして、本日より1月28日まで井邑市立博物館におきまして、「異域万里 類似点と相違点」と題した、韓日文化交流展が開催されております。

韓国の文化財資料と成田市が所有する文化財資料を展示することで、両国の文化の類似点や相違点を比較しようというもので、成田市からは、国の重要文化財となっている縄文時代の「人頭型土製品」や市の指定文化財の「ムササビ型埴輪」をはじめとした約300点の文化財を貸し出し、展示しております。

なお、本日、オープニング・セレモニーがありまして、市の訪問団の一員として神山教育部参事が参加しております。

《質疑》

議 長：私も、井邑市には高校生の訪問団の随員として行きましたが、友好的な方々でありまして、とてもいいまちです。博物館を各所に持っていて、文化に対する意識が高いまちです。伝統芸能をお持ちで、そういったものをしっかり保存していくことにも力を入れているところで、すごいなと思います。

## 7. 教育長閉会宣言